

(仮称)

自然ふれあいの森

ニューズレター 第09号

平成16年3月31日発行 発行:堺自然ふれあいの森委員会

堺自然ふれあいの森委員会報告

第23回/平成16年2月28日(土)

第24回/平成16年3月27日(土)

2月に開催された第23回堺自然ふれあいの森委員会は、林床管理作業、畑作業、田んぼ作業の3班に分かれて里山活動を行いました。絶好の里山活動日和に恵まれ、心地良く活動できました。



○林床管理作業班

調査班の林床管理区域 (G-5 付近) において、常緑樹の伐採と搬出を行いました。中村氏 (オブザーバー) のご協力により、太い木をチェーンソーで伐採することが出来ました。

○畑作業班

御陵ひろば (C-3 付近) において、試験的に畑をつくることになり、ネザサ・クズの根を掘起して畦を作りました。

○田んぼ作業班

原田班長の熱意に動かされ、御陵ひろば (B-3 付近) において、試験的に田をつくることになり、ネザサの根を掘起し、水路や畦を作りました。(詳細は、中面をご覧ください)



今年度の最後となる第24回堺自然ふれあいの森委員会では、企画班からの提案で、次年度以降の運営のしくみについてを話し合いました。平成14年度からはじまった堺自然ふれあいの森委員会もまる2年を終え、今までの経験や様々な反省点を踏まえ次年度に向けての新たな展開を模索していきます。まだ、しばらくは旧体制のまま活動を継続していきますが、近く(6月ころをめぐりに)、新体制での活動が始まる予定です。なお、平成16年度より、新規加入と退会を随時受付ける事となりました。

第23回 活動箇所



運営のしくみ (案)

企画班から提案された次年度以降の運営のしくみは、下記の図のとおり。この提案事項をもとに次回以降の会議で検討、決定していきます。

総会

(活動報告会・交流会など)

- 全構成メンバーが参加する
- 年2回程度開催する
(内、1回は全構成メンバーの交流会、1回は活動報告並びに次年度の活動計画と次年度運営のしくみについて)

運営会議

(意志決定機関)

- 班企画運営会議から各班2名を互選し、運営会議が運営される
- 運営会議は、少数で構成する
(班長・堀田先生、各班2名の企画運営委員、行政、専門家)
- 各班からのふれあいの森で行いたい活動を「計画書」として運営会議に提案する
- 運営会議では、計画内容検討・相互調整・計画書の決定、を行う
- 運営会議は、毎月開催する



ある日の里山活動

平成16年2月28日(土) 第23回堺自然ふれあいの森委員会

去る2月28日、第23回堺自然ふれあいの森委員会では、林床管理作業、畑作業、田んぼ作業の3班に分かれて里山活動を行い、絶好の活動日和に恵まれ、心地よく体を動かすことができました。そんなある日の里山活動のレポートです。



林床管理作業班

数ヶ月前から調査班が調べてきた林床管理区域で常緑樹の伐採と搬出を行いました。生木の重さに驚きながら運び出します。1日の作業でたくさんの光りが入ってくる空間ができました。また以前に伐採し、搬出ができてなかった木もみんなで運び、あたりはすっかりかたずき、いい実験環境が出来あがりました。ツツジ類の生長が楽しみです。



畑作業班

実験的に作っている畑の手入れと御陵前の管理作業を行いました。畑の周囲や御陵ひろばに伸びているネザサや不要と思われる細い木などをエンジン付の刈り機で刈り取り、その刈り残しなどを手持ちの鎌で丁寧に刈りました。また畑では、レタスや水菜などの野菜たちが順調に育ってきており、今後の収穫が楽しみです。普段生活の中ではなかなか知ることができない野菜たちが育っていく様子を見ることが出来る貴重な体験です。



田んぼ作業班

田んぼをゼロからつくるということで、土を耕す人と水路を作る人に分かれ作業しました。田んぼを耕すことは予想以上に時間のかかる作業で、土を掘っても掘ってもネザサが現れます。大変な苦勞をした反面、土の中からカブトムシの幼虫や蟬の抜け殻、カエルの冬眠、モグラの穴などを発見したときは、里山の自然の豊かさを実感することができました。田んぼを耕すことは長い時間がかかりますが、達成感も大きいだろうと思いました。



ちょっとお勉強のコーナー その7 「里山で春に見られる花々」

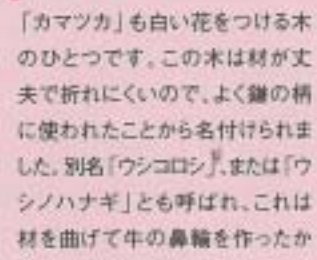
ついに春がやってきました。里山でも、色とりどり花が咲き乱れます。春の里山に咲く花をいくつか紹介したいと思います。

ウツギ



4月から5月にかけての里山には、白い花の咲く木がたくさんあります。そのうちのひとつが「ウツギ」です。この木は、葉が古くなると中心部(すい)がなくなることから、空木(ウツギ)とつけられました。また、卯月(四月)に咲くことからウノハナとも呼ばれています。白い花を下向きにつけ、古く万葉の時代から人々に親しまれ、多くの歌にも詠まれた春の風物詩です。

カマツカ



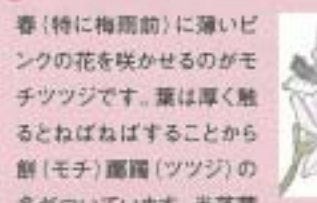
「カマツカ」も白い花をつける木のひとつです。この木は材が丈夫で折れにくいので、よく鎌の柄に使われたことから名付けられました。別名「ウシコロシ」または「ウシノハナギ」とも呼ばれ、これは材を曲げて牛の鼻輪を作ったからという説もあります。秋には楕円形の赤い実をつけます。

コバノミツバツツジ



コバノミツバツツジは里山の春を鮮やかに演出する代表的な花木です。この時期、葉に近い鮮やかなピンク色の花を枝先に咲かせます。小さな葉が枝先に3枚輪生しているので、「小葉の三つ葉露蘭」という名がつけられました。

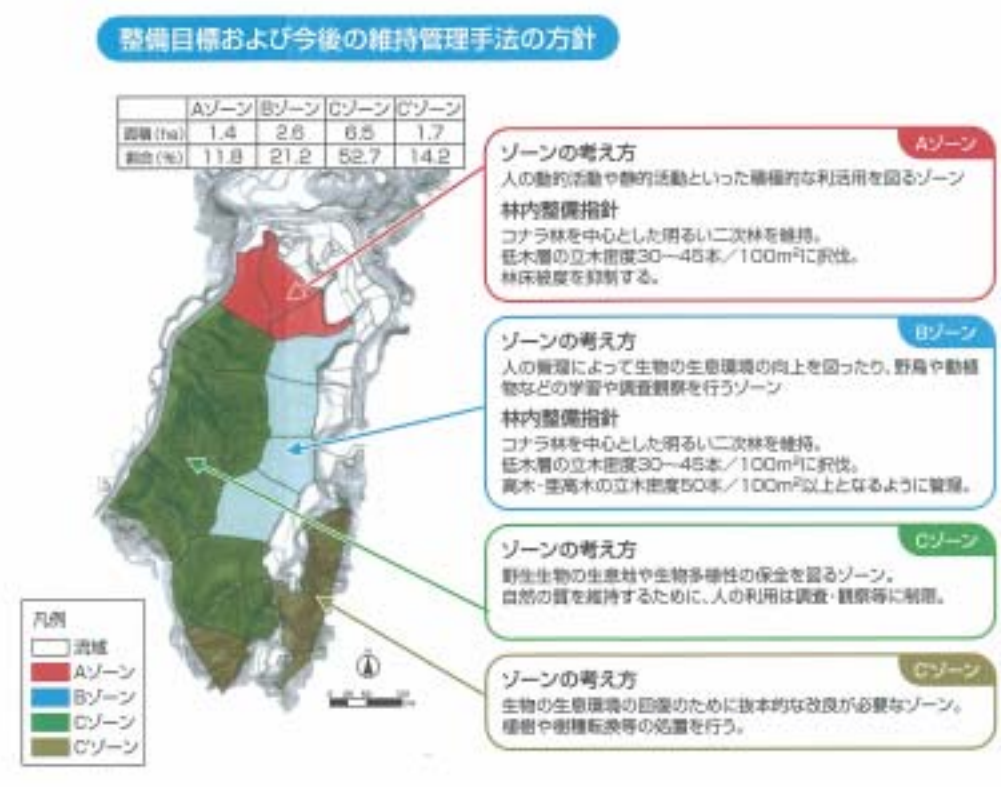
モチツツジ



春(特に梅雨前)に薄いピンクの花を咲かせるのがモチツツジです。葉は厚く触るとねばねばすることから餅(モチ)露蘭(ツツジ)の名がついています。半落葉樹で、秋には紅葉も楽しめます。

管理運営プログラム 調査研究報告

3月27日の委員会で大阪府立大学の大学院生、生、谷崎さんと石崎くんが2年間の活動を通じて調査してきた管理運営プログラム調査研究の報告をしてくれました。ここでは、その一部である「整備目標および今後の維持管理手法の方針」と「ふれあいの森植生分布」をご紹介します。この研究成果をおおいに役立てていきたいと思います。



2年間、一緒に里山活動をがんばってきた大阪府立大学の谷崎くん、石浦くんが大学院を卒業と同時にこの堺自然ふれあいの森委員会も卒業されます。そんな2人に2年間の感想を伺いました。

「2年間を振り返って」

大阪府立大学 緑地環境計画工学研究室 大学院生 谷崎聡史

私は一昨年の4月から約2年間ふれあいの森に参加させていただきました。

振り返ってみると本当に様々な人と出会い、様々な体験をさしてもらい、私の大学院2年間は里山で始まり、里山で終わったような気がします。初めの1年間は学生という立場で、ワークショップに参加し、価値観や立場が多様な人達の中で合意形成はかり、会を進めていく難しさを肌で感じました。また、ニュースレターでは「ちょっとお勉強のコーナー」を担当し、毎回石浦と題材探しに非常に苦労していたのが今となってはいい思い出です。

2年目は修士論文のテーマでもあったため、ふれあいの森を始め大阪府のあちこちの里山を駆けずり回ったり、他団体の活動に参加させてもらったり、たくさんの里山保全活動の参加者とお話をさしてもらいました。その中で私が気持ちのいいと感じた里山は広場(拠点)があり、里道が整備され、定期的に管理が行われている森であり、林内に射し込む木漏れ日がとても美しかったのを覚えています。ふれあいの森も早くそんな人にとっても気持ちのいいゾーンが増えればなあと思いました。

また私は里山づくりは同時に友達づくりであり、生きがいつくりでもあると感じました。実際私も里山を通して様々な人と出会い、会話し、その結果人として成長できたと思います。またどの人も作業をしている顔はいきいきし、輝いていたのがとても印象に残っています。私もいつの間にか時間を忘れ熱中してしまい、どうしてこんなに地味で単純な作業がこんなに楽しいのかと感じ、月1回ふれあいの森に行くのがとても楽しみでした。

これからいろいろな考え方や立場があると思いますが目指すべき目標はみんな同じだと思いますので協力してすばらしい森にしていって下さい。2年間本当にお世話になりました。また時間があれば何わせてもらいます。

お二人とも、本当にお疲れ様でした。また、(仮称)自然ふれあいの森でお会いしましょう。

～堺自然ふれあいの森委員会一同

「しあわせのいすのように」

大阪府立大学 緑地環境計画工学研究室 大学院生 石浦邦章

「しあわせのいす」(杉田豊 絵・文)という絵本があります。あらすじは次のようなものです。

丘の上にはぼつんと白い椅子がおかれています。森の動物たちはその椅子を見つけましたが、使い方を知りません。椅子に乗って飛び跳ねたり、下にもぐってみたり。森の動物たちは椅子を気に入りましたが、やがてその椅子は自分のものだと言い争いを始めます。しかし、実はその椅子は森に遊びに来た女の子が置き忘れたものでした。女の子はその椅子を家に持ち帰ります。動物たちは女の子の家についていき、そこで初めて椅子の使い方を知ります。動物たちは、椅子を女の子から取り返し、再び椅子を丘の上におきます。今度は動物たちは争いをしません。女の子もいっしょになり、皆で仲良く椅子を使います……。

研究で里山保全にとりくむ市民団体を調査して、里山ってしあわせのいすに似ているな、と思いました。参加者の皆さんは里山が好きです。そして里山を保全するために利用方法について議論して、ときに喧嘩して、保全方法がわかると里山はみんなのものになっていく。しあわせのいすと里山の違うところは、椅子の使い方はひとつですが、里山の保全方法はひとつではないということでしょう。

ふれあいの森は、現在、保全方法と運営形態について模索している段階です。しかし、2年間かかわってきて思うのですが、ふれあいの森は確実に発展してきています。今後もみなさんと汗を流し、議論をし、時に喧嘩もし、ふれあいの森をしあわせのいすのようにして下さい。

2年間どうもありがとうございました。

問い合わせ先

堺自然ふれあいの森委員会 事務局
堺市 公園整備課
TEL:072-228-8174 FAX:072-228-1336

ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/> (5月より下記URLに移転いたします)
http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_kouen/seibi/fureai.html

アクセス方法

